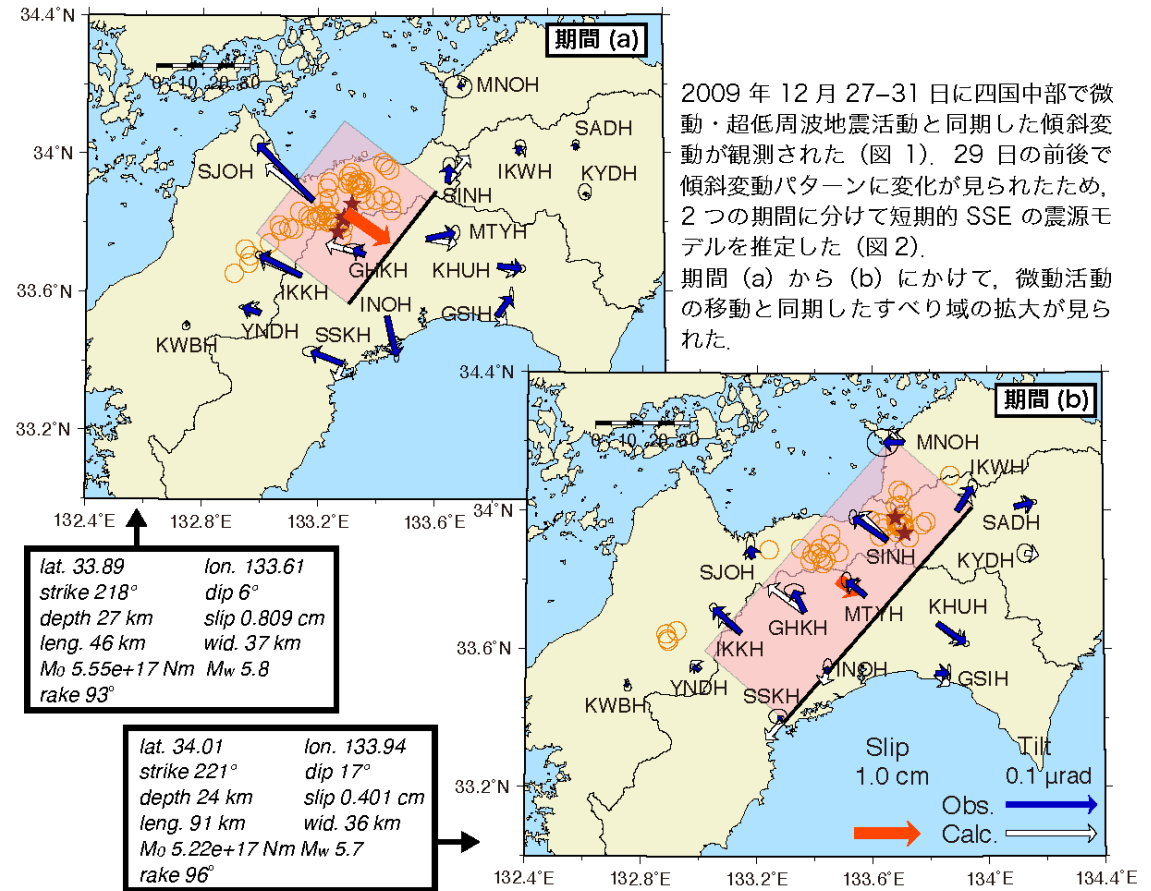
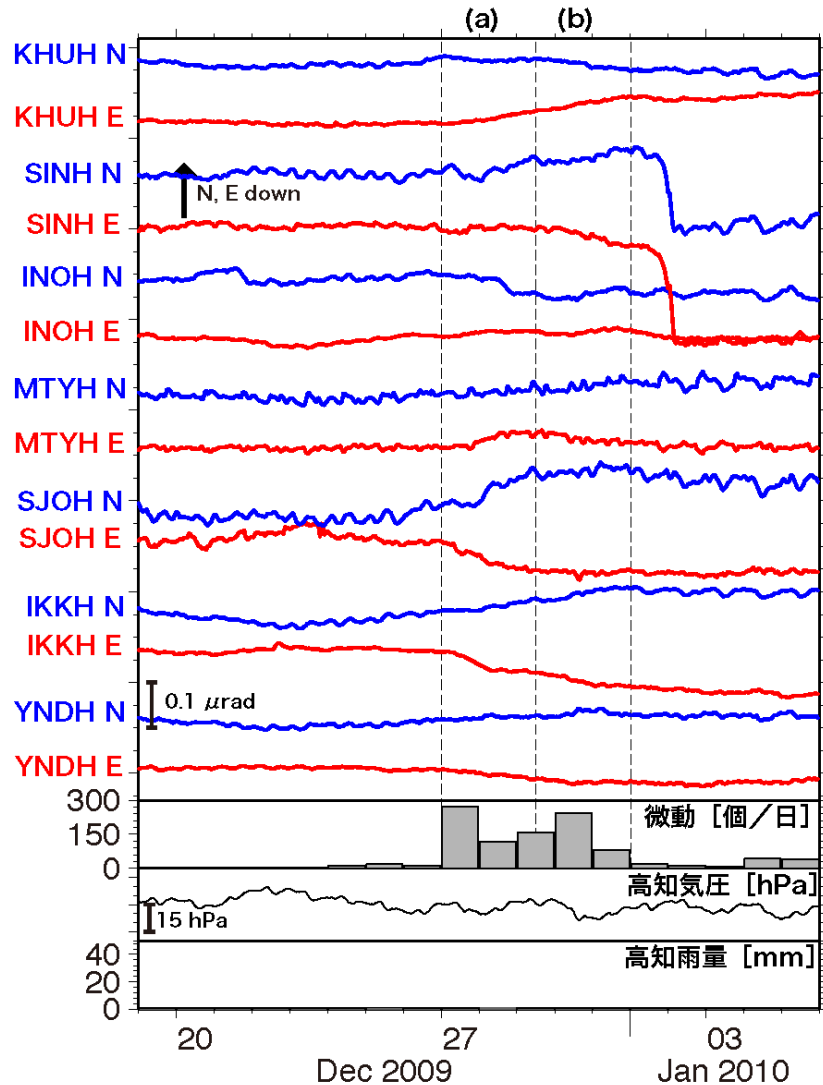


# 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

## (2009年11月～2010年1月) その3

- ・四国中部を活動域とする短期的スロースリップイベント (M<sub>w</sub> 5.9)
- ・2009年5月 (M<sub>w</sub> 5.7) 以来約7ヶ月ぶり, 約2.5倍の規模



2009年12月27-31日に四国中部で微動・超低周波地震活動と同期した傾斜変動が観測された(図1)。29日の前後で傾斜変動パターンに変化が見られたため、2つの期間に分けて短期的SSEの震源モデルを推定した(図2)。

期間(a)から(b)にかけて、微動活動の移動と同期したすべり域の拡大が見られた。

図2: 図1の期間(a), (b)に観測された傾斜変化ベクトル(青矢印), 各期間のデータから推定されたスロースリップイベントの断層モデル(赤矩形・矢印), モデルから計算される傾斜変化ベクトル(白抜き矢印)を示す。各期間中の1時間ごとの微動エネルギーの重心位置(橙丸), 深部超低周波地震の震央(茶星印)もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。

図1: 2009年12月19日～2010年1月5日の傾斜時系列。上方向への変化が北・東下がり傾斜変動を表し、BAYTAP-Gにより潮汐成分を除去した。観測点位置、傾斜変化ベクトルを図2に示す。四国中部での微動活動度・気象庁高知観測点の気圧・雨量をあわせて示す。

謝辞

気象庁のWEBページで公開されている気象データを使用させて頂きました。記して感謝いたします。